

# 八千代市における梨の白紋羽病防除の取組

## ～効率的な温水処理及び微生物資材を用いた防除方法の検討～

### 1 活動のねらい

八千代市梨業組合では、若手生産者である研究部員を中心に白紋羽病対策として、温水処理機を用いた温水点滴処理（以下、温水処理）や微生物資材による防除に取り組んでいます。

本年度は、温水処理の効果の検証と、他産地に先立って導入されている温水処理機の活用推進を目的として、効率的な使用方法を検討しました。併せて、微生物資材の効果の検証を行いました。

### 2 課題の背景

八千代市は、大正時代初期から梨の生産が行われている産地です。梨栽培では単一品目栽培を長期間行うことから、白紋羽病による樹勢低下や枯死（特に若木）が問題となっています。

特に、改植後の若木が枯れてしまうと、生産者の経営的・精神的ダメージも大きいため、効果が高く効き目が長い防除方法の確立が求められています。現在は、薬剤の土壌灌注が広く行われていますが、費用が高額であり、労力もかかるため、十分に実施できていない状況です。

### 3 普及活動の経過・結果

#### (1) 温水処理による防除

当農業事務所では、八千代市内に導入されている温水処理機を用いた白紋羽病防除の現地検討会を、本年6月に若手生産者で構成される研究部を対象に開催しました。千葉県農林総合研究センター生物工学研究室と協力し、温水処理機の使用法や温水処理の効果、治療メカニズムの説明や温水処理機の導入による経済的効果等について学ぶ機会を設けました。本検討会を行ったことで、今年度の温水処理実施者は、昨年度3名から6名へ大きく増加しました。

また、効率的な温水処理の実施方法として、一度に4樹同時処理を現地で検討し、一定の水圧があれば問題ないことを確認しました。これにより、夏期（6月～7月）の日照時間が長い時期であれば、1日最大3回転（1回の処理時間は3～4時間、計12樹の実施）可能であることがわかりました。

温水処理の効果については、昨年度実施した樹で今年度枯れた樹はありませんでした（温水処理時に、過度に地中の温度上昇があった箇所や、実施前に顕著な樹勢低下が認められた樹は除く）。他産地の調査結果から温水処理の効果はおおむね2～3年程度とあるため、引き続き観察を続けていきます。

薬剤防除の場合、白紋羽病発生が激しいほ場では、毎年処理が必要なことから、温水処理による防除は省力化にもつながると考えられます。



写真1 温水処理の設置を行う研究部員



写真2 温水処理の4樹同時処理の様子

## (2) 微生物資材施用による防除

八千代市では、温水処理による防除と並行して、微生物資材（T-プロテクト 日本タルク株式会社）を用いた白紋羽病防除の試験を行っています。

この資材は、施用後土壤中では白紋羽病菌に対する拮抗菌を増やし、白紋羽病の発病を抑止することが期待されています。



写真3 微生物資材を処理する様子

## 4 今後の課題

他産地では、温水処理後も白紋羽病の再発事例が報告されています。今後、処理箇所について継続してモニタリングを行い、防除効果の継続期間調査と白紋羽病再発防止に向けた、温水処理の実施間隔の検討を行っていきます。併せてより効率的な実施方法の検討と、かん水チューブの低コスト化も検討する予定です。

また、働きかけにより、新たな温水処理機の導入について検討されているため、事業活用を支援していきます。

微生物資材については、現状資材価格が高額であるため、現地における試験を農林総合研究センターと協力して継続し、効果の検証を続けていくとともに、他産地での試験結果についても情報収集を行っていきます。

5 担当者 八千代グループ 田中 稔久

6 協力機関 JA八千代市、千葉県農林総合研究センター